

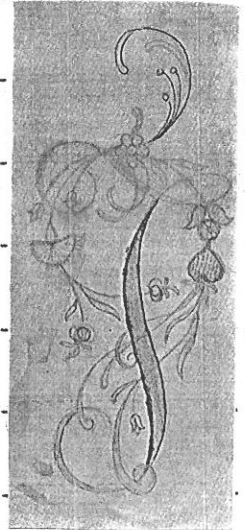
# 美術科 夏休み学習課題

( )年

## 鑑賞レポート 題名【 鹿児島市立美術館に行つて 】

私は市立美術館で行われている、ミュシャ展で「アルフォンス・ミュシャ」という芸術家の「ユリンカ、ミュシャの初恋の人」「四季：春、夏、秋、冬」というデザイン画、カレンダーを観ました。

アルフォンス・ミュシャは、チェコ東部のイヴァンチツェに生まれ、幼少期から絵や音楽に興味を持ち始め、聖歌隊に入り、中学校の学費まで稼ぎながら通っていました。すると、「ユリエ・フィロヴァー（ユリンカ、Julinka）」に初恋をし、右のデザイン画をかいたそうです。このデザイン画の中にある「J」は、Julinkaの「J」です。その後も、ユリンカはミュシャに入り興を与え、作品の中にもユリンカは投影されていきました。



その後、ミュシャは絵の道を決意し、パリへ出ます。パリでは、「おはあじのお話」という挿絵を書き、人気の挿絵画家になりました。そしてアメリカへ移住し、ヤロスラヴァというミュシャの娘を多

く描きました。ヤロスラヴァは、ポスターにも描かれていて、ミュシャの娘への愛が感じられます。右のカレンダー（装飾パネ）「四季：春・夏・秋・冬」は、四季を表していて、残り3枚も、女性の美しさが表されていました。私はこの絵を観て、ミュシャは植物、服、表情で四季を表し、かみの毛の流れ、布の曲線で女性の美しさを表していたと感じました。私は美術館にあまり行きませんが、ミュシャ展は、ミュシャが描く女性の特徴がすごく表れていて、感動しました。

